

平成20年度行動計画

飼料自給率向上に向けた平成20年度行動計画(抜粋)

項目

対応方向

目標

飼料作物作付面積の拡大

	H17	H18	H19(速報値)
飼料作物作付面積	905.8千ha	898.1千ha	897.2千ha
うち青刈りとうもろこし	85.3千ha	84.4千ha	86.1千ha

(農林水産省「耕地及び作付面積統計」)

青刈りとうもろこし等の高栄養飼料の作付拡大や新技術の導入と緑肥からの飼料作物への転換、水田裏での飼料生産

作付面積拡大 2万ha

青刈りとうもろこし作付面積 92,000ha

稲WCS作付面積の拡大

	H17	H18	H19(見込み)
稲WCS作付面積	4,594ha	5,182ha	6,000ha

(農林水産省畜産振興課調べ)

稲WCS等水田を活用した飼料作物作付面積拡大と飼料用米の利活用円滑化、多収品種の開発と導入

21年度稲WCS作付 8,000ha
飼料用米のモデル実証による利活用体制の構築

水田放牧の推進

肉用牛の	H17年度	H18年度	H19年度(見込み)
水田放牧頭数	3,270頭	4,453頭	4,660頭
面積	602ha	1,068ha	1,171ha

(農林水産省畜産振興課調べ)

シンポジウム開催や放牧条件整備、放牧経験牛(レンタカウ)の確保、草地管理技術の改良による放牧の推進

水田放牧の取組拡大
(肉用牛放牧頭数:5,000頭)

国産粗飼料の生産・流通の円滑化

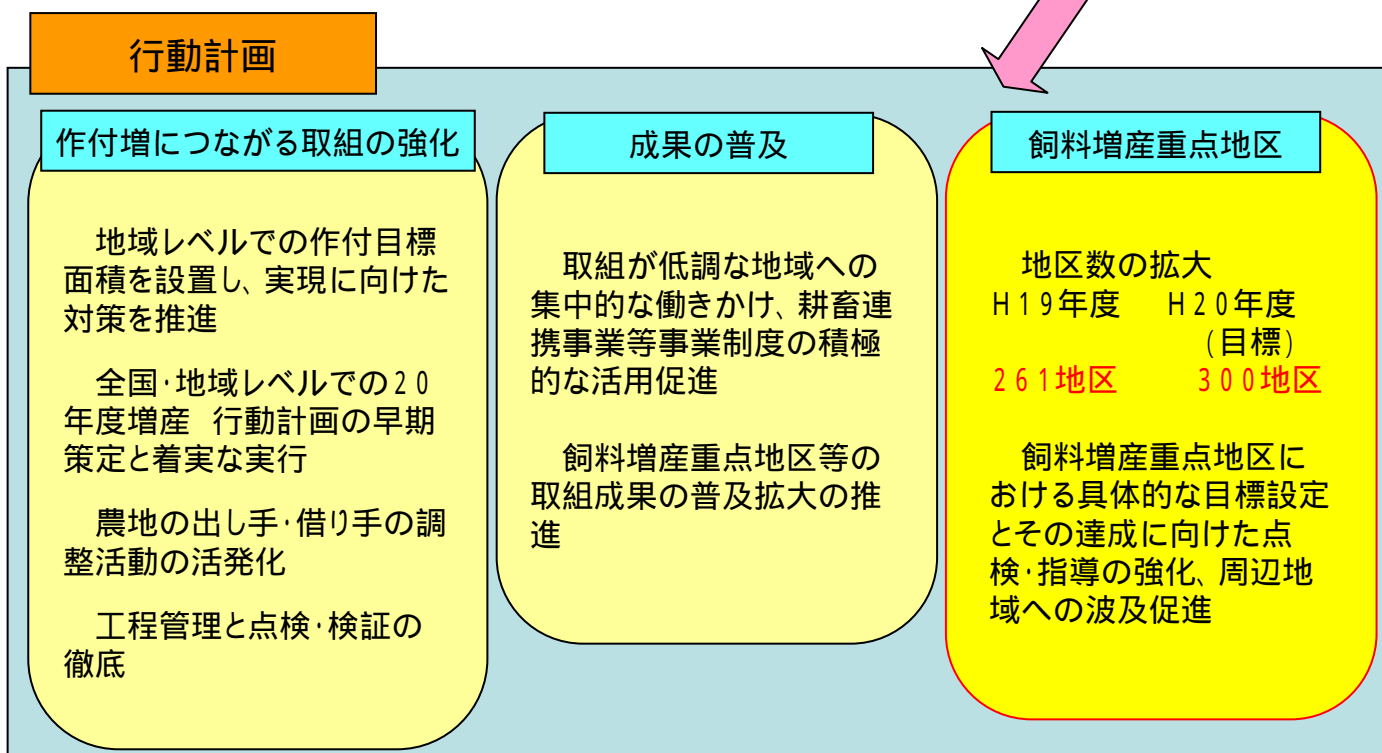
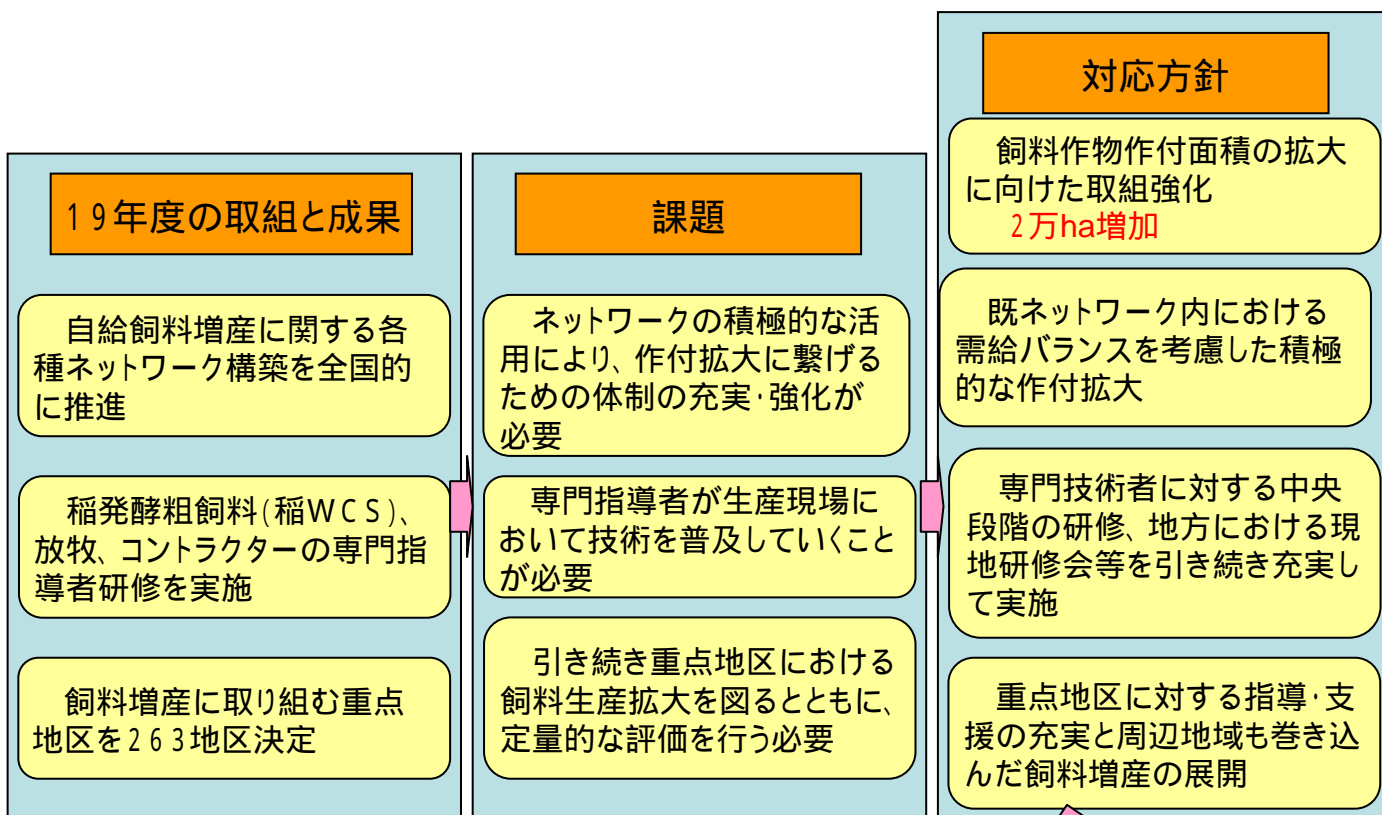
- ・ 飼料生産の外部化の推進
- ・ 高品質な粗飼料生産の推進
- ・ 国産稲わら等の利用促進

- ・ コントラクターの育成・強化、TMRセンターの育成と利用拡大
- ・ 高収量・高品質な飼料生産技術の開発と実証
- ・ 国産稲わら等の流通体制の構築

- ・ コントラクターによる受託作業面積 10万ha以上
- ・ 自給飼料成分の実態調査
- ・ 需要量に見合った稲わら等国産流通粗飼料の確保

飼料増産に向けた平成20年度行動計画

飼料増産運動



飼料作物作付面積の拡大

19年度の取組と成果

作付面積減少の歯止め
平成18年 平成19年(速報値)
898.1千ha 897.2千ha

作付限界地(寒冷地)対応品種の普及

青刈りとうもろこし作付面積増
(+1700ha)

課題と対応方針

全国の作付面積の減少に歯止めがかかったもの、増加に転じるためには、作業労力の低減が可能な技術、地域に適した品種の普及が必要

緑肥から飼料作物への転換

飼料作物作付面積の拡大
細断型ロールベアラ作業・給与体系の普及
地域に適した高収量品種の普及
コントラクターの活用

行動計画

20年度飼料作物作付拡大活動

20年度青刈りとうもろこし作付増進重点活動

事業を活用した作付増進、現地実証や研究機関との連携による技術・品種の導入・普及

飼料作物作付面積の拡大
20,000ha増加(目標)

青刈りとうもろこし作付面積の拡大
92,000ha超(目標)

緑肥からの飼料作物転換
耕作放棄地の畜産利用
奨励品種の導入・普及

細断型ロールベアラ作業・給与体系、地域に適した奨励品種の導入・普及
特に、北海道における極早生品種、九州における二期作適応品種、技術の導入・普及

促進のための施策等

一般予算

- ・強い農業づくり交付金
- ・粗飼料増産未利用資源活用促進対策事業
農畜産業振興機構事業
- ・国産飼料資源活用促進総合対策事業のうち
青刈りとうもろこし作付け拡大緊急対策
高位生産性草地への転換
飼料増産受託システム拡大緊急対策

公共予算

- ・草地畜産基盤整備事業

等

稲WCS等水田を活用した飼料作物作付拡大・飼料用米の利活用円滑化

19年度の取組と成果

20年産稲WCS作付増産重点活動

生産・利用専門指導者(稲WCSコーディネーター)養成研修を36名が受講

稲WCS作付面積の増加
H18 H19(見込み)
5,182ha 6,339ha

課題と対応方針

水田転作における麦や大豆との競合等により、稲WCSの位置づけが弱い地域が未だ存在。耕畜連携事業の積極的な活用による稲発酵粗飼料の位置づけの強化が必要

需給マップ・ネットワークの活用
水田裏を活用した飼料作物(WCS用表)の作付推進
専門指導者の育成
コントラクターの活用
専用多収品種の開発・普及



行動計画

稲WCS増産活動、飼料用米の利活用モデル実証

稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアルの活用等による単収・品質の向上
飼料用米のモデル実証による利活用体制の構築

21年産稲WCS作付け増進重点活動の早期実施 8,000ha(目標)

需給マップ・ネットワークを活用した斡旋・仲介活動

生産助成、給与助成、収穫機械整備支援等の活用

稲WCSコーディネーター養成研修

50名程度

促進のための施策等

一般予算

- ・強い農業づくり交付金
- ・耕畜連携水田活用対策事業
- ・国産粗飼料増産対策事業
- ・農畜産業振興機構事業
- ・国産飼料資源活用促進総合対策事業
- ・飼料米導入定着化緊急対策
- ・飼料増産受託システム拡大緊急対策

放牧の推進

19年度の取組と成果

放牧サミットを青森県で開催し、
300名が参加

専門指導者養成研修

- ・放牧伝道師養成研修 27名
- ・酪農放牧指導者養成研修 35名

肉用牛の水田放牧頭数

H17年度	H18年度	H19年度(見込み)
3,270頭	4,453頭	4,660頭

課題と対応方針

耕作放棄地や水田等を活用した肉用牛の放牧の取組は拡大しているものの地域的に偏り

肉用牛増頭戦略会議と連動し、特に水田放牧による肉用牛の増頭を推進
乳用牛は集約放牧の導入・普及を推進
需給マップ・ネットワークの活用
専門指導者の育成・シンポジウム開催
電気牧柵・レンタルカウの導入



行動計画

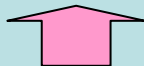
放牧の推進

肉用牛増頭戦略会議

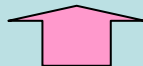


水田放牧の取組拡大(肉用牛の増頭)
H20年度 5,000頭(目標)

乳用牛について、集約放牧を推進



需給マップ・ネットワークを活用した斡旋・仲介活動



水田放牧への助成、電気牧柵、レンタルカウの活用

放牧サミット

放牧指導者(放牧伝道師等)養成研修
50名程度

促進のための施策等

一般予算

- ・強い農業づくり交付金
- ・耕畜連携水田活用対策
- 農畜産業振興機構事業
- ・国産飼料資源活用促進総合対策事業
- 放牧経験牛貸付制度構築
- 粗飼料の効率的利用促進

公共予算

- ・草地畜産基盤整備事業

等

粗飼料だって**地産地消**

～粗飼料自給100%を目指して飼料作物の作付面積拡大目標を達成しよう～

配合飼料低減に向けて高収量・高栄養の青刈りとうもろこしの作付を拡大しましょう。寒冷地でも作付に適した品種があります。

水田や耕作放棄地等を活用して増頭しましょう！
レンタカウ制度の構築を支援します。

高栄養・高収量な青刈りとうもろこしの作付を拡大しよう

耕畜連携は飼料増産のカナメ！

耕作放棄地や水田での放牧を推進しよう

稲発酵粗飼料を増産しよう
(水田を活用しましょう)

飼料作物作付面積拡大目標
平成20年度
20,000ha

国産稲わらを活用しよう

草地をリフレッシュしよう

安全・安心な国内産稲わらを確保しましょう。

トラクターと連携しよう

定期的な更新を！
飼料成分を把握して給与しましょう。
耕作放棄地などの資源も活用しましょう！

全国447組織
いまや地域畜産の牽引役

消費者に自給飼料で育てた安全・安心な畜産物を届けよう

お願い
飼料増産に関する会議などでは国産牛乳を飲みましょう！

平成20年度 全国飼料増産行動会議
農林水産省 生産局畜産部畜産振興課
TEL. 03-3502-5993(直通)